

乳牛のストレス改善で生乳生産性アップ！！

県央農林総合事務所 津幡農林事務所



寸法を測り改善点を農家と共に考えます



位置を改善したマセン棒(矢印)

当事務所管内の河北潟干拓地で酪農が始まって27年が経ち、この間、乳牛の改良や行動に対する研究が進み、乳量の多い牛が増えました。一方、当時建設された牛舎の設備に、当時では想定できなかった、乳牛にストレスをかける箇所があることも明らかとなりました。このため生乳の生産性向上には、乳牛のストレスを軽減・解消するために現有牛舎の構造を見直す必要がありました。

このような中、当事務所では、酪農の先進地である十勝農業協同組合連合会のフィールドアドバイザーの助言も受け、平成20年3月から、現有牛舎の各設備について調査・検討し、改善に取り組んでいます。

実際に調査した酪農家14戸の牛舎設備で、マセン棒の位置やえさ箱（飼槽）の高さ・材質などに問題がありました。

例えば、マセン棒は乳牛が部屋から外へ出ないようにする役割があり、この位置が悪いと、餌を自由に食べられないうえに、首の部分が擦れたりコブになったりして、乳牛にストレスが加わります。

このため当事務所では、農家に対して問題箇所の改善の必要性を訴え、改善方法を指導しました。

その結果、乳牛のコブが消え、体のつやが良くなるとともに、餌を食べる量が増え、生乳生産量の増加が期待されています。

こうした取り組みは、農家個々で改善箇所や方法が異なるため、今後も農家とともに、それぞれに合った改善方法を講じながら、生乳の生産性向上の取り組みを拡大していきます。

問い合わせ先：県央農林総合事務所 津幡農林事務所(076-289-4158)